

名前（ ） 日づけ（ / ） できた数（ /28）

使い方 本文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この話の山は「させ給ふ・思ひ召す・侍り」の敬語の方向、「え〜じ」「こそ」の結びの省略といった文法、そして和歌「勅なれば…」を読んだ帝が後悔した理由です。

あらすじ＝語り手の夏山繁樹が、なにがし殿が蔵人でいらっしやったころ、そのご命令を受けて梅を探しに行った時の体験を語る。村上天皇の御代、清涼殿の前の梅が枯れたので、帝が代わりの梅をお求めになった。繁樹は都じゅうを探し歩き、西の京のある家に色濃く美しく咲いた梅を見つけて掘り取る。すると家の主人が、木に手紙を結びつけて持って行けと言わせた。宮中で帝が御覧になると、女の筆跡で「勅なればいともかしこし鶯の宿はと問はばいかが答へむ」とあった。帝が家の主を尋ねさせると、そこは紀貫之の娘の住まいであった。帝は「遺恨のわざをもしたりけるかな」ときまり悪そうにおっしゃり、「あるまじきことなり」として梅をすべて返させた。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

いと①をかしうあはれに②侍りしことは、この天曆（てんりやく）の御時に、清涼殿（せいりやうでん）の御前（おまへ）の梅の木（うめ）の枯れたりしかば、③求めさせ給ひしに、なにがし主（ぬし）の藏人（くらうど）にていますがりし時、④承りて、「若き者どもは⑤え見知らじ。きむぢ求めよ。」とのたまひしかば、⑥一京まかり歩きしかども、侍らざりしに、西の京のそこそこのなる家に、色濃く咲きたる木の、⑦様体（やうだい）うつくしきがはべりしを、掘り取りしかば、家あるじの、⑧「木にこれ結ひつけて持て参れ。」と言はせ給ひしかば、⑧あるやうこそはとて、持て参りて候ひしを、「なにぞ。」とて御覽じければ、⑨女の手にて書きて侍りける。

勅なればいともかしこし(10) 鶯(11)(うぐひす)の宿はと問はばいかが答へむ

とありけるに、¹²あやししく思し召して、「何者の家ぞ。」と尋ねさせ給ひければ、貫之のぬしの御むすめの住む所なりけり。¹³遺恨（るこん）のわざをもしたりけるかな。」とて、¹⁴あまえおはしましける。繁樹（しげき）今生（こんじやう）の恥はこれや侍りけむ。さるは、「¹⁵あるまじきことなり。」とて、皆かへし奉りて、その家をば陽成院（やうぜいゐん）の齋院（さいゐん）にはたてまつられにける、とぞ。

語注　をかし＝趣がある。心たひかれる。あはれなり＝しみじみと心を打たれる。感慨深い。侍（はべり）＝丁寧語で「ございます・ます」。語り手が聞き手に対してへくだる言い方。天曆の御時＝村上天皇の御代。天曆は村上天皇の時の年号。清涼殿＝天皇がふだんお住まいになる御殿。御前＝おそば。こは清涼殿の前庭。なにがし主になにがし殿。名をはっきり言わずにさす言い方。蔵人＝天皇のそば近くに仕え、機密の事務などを扱う役。いますがり＝「あり・をり」の尊敬語。いらっしやる。承（う）＝「う」けたまは）る＝「受く・聞く」の謙讓語。（ご命令を）お受けする。えゝじゝできないだろう。「え」は下に打消の語を伴って不可能を表す副詞。きむぢ＝おまえ。対等以て言ふ。下の相手をよぶ二人称。一京＝都じゅう。京の町じゅう。まかり歩く＝歩き回る。様体＝姿かたち。ようす。うつくし＝こは（木の姿が）美しい・見事だ。古文の「うつくし」は「かわいらしい・いとしい」が基本の意味なので注意。あるやうこそは＝何かわけがあるのだらう。下に「あらめ」が省略されている。候（さぶら）ふ＝お仕えなす。このこは（宮中に）ひかえている。手＝筆跡。「女の手」＝女性の筆跡。勅＝天皇の命令。みことのり。かしこし＝恐れ多い。おそれつつしむべきだ。あやし＝こはは「不思議だ・変だ」。「身分が低い・粗末だ」の意もあるので文脈で見分ける。思（おほ）し召（め）す＝「思ふ」の尊敬語。お思いになる。遺恨のわざ＝残念な行い。心残。りなしわぎ。あまゆ＝きまり悪く思う。恥ずかしがる。ヤ行下二段動詞で、本文の「あまえ」はその連用形。おはします＝「あり・をり」の尊敬語。いらっしやる。この世に生きている間。一生。さは＝そうはいうものの。それというのは。文脈によって訳し分ける。まじ＝こはは打消当然で「てはならない」。かへし奉る＝お返し申し上げる。陽成院＝第五十七代陽成天皇。また、その御所。斎院＝賀茂の神に仕えた未婚の内親王。また、その御所。とぞ＝「と」ということだ。下に「言ふ」「聞」が省略された伝聞の言い方。※末尾の一文は語句がむずかしいところです。お使いの教科書の注に合わせてください。※大鏡＝平安時代後期に成立した歴史物語。作者未詳。大宅世継（おほやけのよつぎ）と夏山繁樹（なつやまのしげき）という長寿の老人の昔語りという形をとる。この話の語り手は繁樹。

A 語句の意味と読み (1～7)

- (1) ①「をかしうあはれに」の「をかし」の、ここでの意味を書け。
- (2) ①「をかしうあはれに」の「あはれなり」の意味を書け。
- (3) ⑥「一京まかり歩きしかども」の「まかり歩く」の意味を書け。
- (4) ⑦「様体(やうだい)うつくしき」の「うつくし」の、ここでの意味を書け。
- (5) ⑩「勅なればいともかしこし」の「勅」の読みと意味を書け。
- (6) ⑫「あやしく思し召して」の「あやし」の、ここでの意味を書け。
- (7) ⑭「あまえおはしましける」の意味を書け。

B 文法 (8～13)

- (8) ②「侍りしことは」の「し」は何の助動詞の何形か。そう判断できる理由も書け。
- (9) ③「求めさせ給ひし」の「させ給ひ」を文法的に説明し、口語訳も書け。
- (10) ⑤「え見知らじ」の「え」の働きと、「じ」の文法的意味を書け。
- (11) ⑧「あるやうこそはとて」は、係助詞「こそ」の結びが省略されている。省略されている語を補って、どのような形になるか書け。
- (12) ⑪「鶯(うぐひす)の宿はと問はばいか答へむ」の「問はば」を文法的に説明し、意味も書け。
- (13) ⑮「あるまじきことなり」の「まじ」の文法的意味と活用形を書け。

C 主語・指す内容・敬意の方向 (14～18)

(14) ②「侍りしことは」の「侍り」は敬語の種類として何にあたるか。また、誰から誰への敬意か。

(15) ④「承りて」は何敬語か。また、誰から誰への敬意を表すか。承ったのは誰かもあわせて書け。

(16) ⑨「女の手にて書いて侍りける」の「手」とはここでは何のことか。また、その「女」とは誰か。本文の言葉を使って書け。

(17) ⑫「あやしく思し召して」の「思し召す」は何敬語か。また、誰から誰への敬意か。

(18) ⑭「あまえおはしましける」の主語は誰か。

D 口語訳 (19～22)

(19) ③をふくむ「清涼殿の御前の梅の木が枯れたりしかば、求めさせ給ひしに」を口語訳せよ。

(20) ⑤・⑥をふくむ『「若き者どもはえ見知らじ。きむぢ求めよ。」とのたまひしかば、一京まかり歩きしかども、侍らざりしに』を口語訳せよ。

(21) ⑩・⑪の和歌「勅なればいともかしこし鶯の宿はと問はばいか答へむ」を口語訳せよ。

(22) ⑬・⑭をふくむ『「遺恨のわざをもしたりけるかな。」とて、あまえおはしましける』を口語訳せよ。

E 内容・記述 (23～25)

(23) ⑬「遺恨(るこん)のわぎをもしたりけるかな」とあるが、帝はどのようなことを「遺恨」だと思ったのか。和歌の内容と、その家の主が誰であつたかにふれて書け。

(24) ⑮「あるまじきことなり」とあるが、帝はこの言葉のあとどうしたか。本文に即して書け。

(25) この話が伝えようとしていること(主題)を、⑩・⑪の和歌と、⑬・⑮の帝のふるまいをふまえて書け。

F 文学史(本文全体をふまえて答える) (26～28)

(26) この文章の出典『大鏡』はどのような書物か。成立した時代・ジャンル・叙述の形式(体裁)にふれて書け。

(27) ⑩・⑪の和歌の作者は誰だとされているか。またその父はどのような人物か書け。

(28) この話が「鶯宿梅(おうしゅくばい)」と呼ばれるのはなぜか。⑪の和歌の言葉をふまえて書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①敬語は三本立てで整理する。③「させ給ふ」⑫「思し召す」⑭「おはします」は帝への尊敬、④「承る」は帝への謙譲、②「侍り」は語り手繁樹から聞き手への丁寧。「誰から誰へ」をセットで答えられるようにしておく。②和歌の「宿」がこの話の急所。⑪「鶯の宿はと問はばいかか答へむ」は、「宿」の一語に鶯のすみか(＝梅の木)と自分の住む家の両方を重ねて、勅命には従うが奪われるのはつらい、とやわらかく訴える。③現代語と意味がちがう語を落とさない。①「をかし」⑦「うつくし」⑫「あやし」⑭「あまえおはします」。とくに⑭は「きまり悪そうにしていっちゃった」で、「甘える」ではない。